

指標設定および進行管理の考え方について（素案）

1. 現行計画における指標および進行管理の考え方

「茨木市地球温暖化対策実行計画」では、進行管理について以下のように記載されている。

- 二酸化炭素排出量を部門別に「見える化」し、取り組みの進捗状況や取り組みによる削減効果を把握し、評価するとともに、その評価を市民・事業者・市の取り組みに反映させる。
- 目標値（1人あたりの排出量）の経年変化の把握の他に、「次代の低炭素社会へあゆむまち 茨木」の実現を牽引する指標についても評価指標とする。
- また、2050年度の長期目標に向けた「まちの姿」を牽引する『プロセス目標』についても、推進委員会（＝現部会）およびプラットフォームからの提案を受け、設定していく。

2. 各指標の役割および設定に関する課題等

各指標については、その役割の性質等から「目標値への進捗指標」と「評価指標」、「プロセス目標」の3つに分けて設定をする。また、それらの設定に関する考え方、課題等を下記に示す。

各指標の役割および設定に関する課題

名称（仮）	項目イメージ	役割
① 目標値への進捗指標	・1人あたりの排出量（t-CO ₂ /人）	・目標値への達成度合いを図る。 ※排出係数についても変化が分かるように明記する。
② 評価指標	a. 1人あたりのエネルギー消費量（GJ/人） b. 部門別排出量（t-CO ₂ /固有単位） c. まちの姿実現に向けた実態や進捗を図る指標	・目標に向けた要因分析の役割を果たす（a, b, c）。 ・各「まちの姿」に向けた現状把握（市、市民、事業者）を行う。（c）
③ プロセス目標	・2050年度の大幅削減の目標に向けて具現化した『まちの姿』の一部。 ・市域全域目標と異なり、ある主体等の行動の具現化した姿が目標となるため、将来的に各主体が自ら提言し、実行していくもの	・市民、事業者、市が目指すまちの姿を具現化して、大幅削減目標へのドライビング・フォースとなる。

<今年度の論点について>

- ・評価指標の設定について
- ・進行管理のスケジュールについて

<課題・留意点>

- ・市、市民、事業者の実態をあらわす指標や評価方法の仕組み。
（例えば、施策分のみだと市の行動把握は出来るが、事業者、市民独自の動きの把握が困難となる。一方、事業者・市民の独自の動きを全て把握することは困難。）
- ・一定、経年変化として把握可能なもの。

3. 評価指標設定・評価方法について

<設定の考え方>

- ・全てのまちの姿に関連する指標（全体指標）および各まちの姿実現に向けた（活動指標）の2種類に分けて設定を行う。
- ・全体指標については、計画期間中把握できる値とする。
- ・活動指標については、まちの姿別に1～3程度とする。また、複数年把握できるものとするが、社会情勢の変化や市域の状況等も踏まえ、部会の議論により計画期間中における追加が可能なものとする。
- ・その他関連計画等と指標の整合をはかる。

<評価方法>

- ・各指標について、「前回（昨年度）データとの比較」「開始年から見た傾向（増加、減少、横ばい）」について評価を行う。
- ・指標とともに、その年度に実施した施策についても、一覧表で示し、あわせて評価を行う。
- ・市民、事業者の活動については、経年変化で傾向が把握可能な数値としての把握が難しいため、指標化しない。ただし、市内での市民・事業者の取り組みの把握に努めて、指標の進捗評価の際に紹介し、定性的に全体の進捗管理に反映していく。

<評価指標（案）>

○全体指標例

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・1人あたりのエネルギー消費量（GJ/人）	毎年	<ul style="list-style-type: none"> ・統計データより把握 ・全体および部門別に把握 ・部門は産業、民生業務、民生家庭、運輸部門、廃棄物部門とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気・都市ガスについては市域の実態把握が可能 ・その他エネルギーについては国のデータからの按分 ・排出量と比べると市域の活動実態の把握が可能
・部門別排出量（t-CO2/固有単位）	毎年	<ul style="list-style-type: none"> ・統計データより把握 ・把握部門は、産業部門、民生家庭部門、民生業務部門、運輸部門（旅客、貨物、その他）、廃棄物部門（市民、事業者）とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭部門については市域の実態に近い値が把握可能 ・その他部門については、国のデータからの按分 ・産業部門については、大企業、中小企業の区別はデータ把握が可能な場合掲載（公開時期が難しい場合があります）

○活動指標例

<1. 環境にやさしいライフスタイルが普及しているまち>

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・環境フェア等各種普及啓発事業への参加者数（人）	毎年	・市による把握	
・エコオフィスプランいばらきによる成果（t-CO2/年）	毎年	・市による把握	
・ごみ減量に関する啓発の取り組み数	毎年	・市による把握	※ごみ減量に関する項目を検討

<2. 多様な暮らし・なりわいができるまち>

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・再生可能エネルギー導入件数	毎年	・市による把握	・エネルギー事業者への照会で把握可
・長期優良住宅、低炭素建築物の認定件数、割合（%）	毎年	・市による把握	

<3. 人にも環境にもやさしく移動ができるまち>

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・市民1人あたりの自動車の利用頻度	未定	・アンケート調査	・茨木市総合交通戦略と整合をあわす（特に、市民1人あたりの自動車の利用頻度、中心部の歩行者・自転車通行量）
・鉄道利用者数	毎年	・鉄道事業者資料	
・バス利用者数	毎年	・バス事業者資料	
・中心部の歩行者・自転車通行量	5年に1回	・道路交通センサス又は交通量調査	・中心部の歩行者・自転車通行量は5年に1回把握。
・EV・PHV普及数、充電設置数	毎年	・大阪府への問い合わせ	
・コミュニティ（レンタ）サイクル導入台数	毎年	・各主体への問い合わせ	

<4. 環境負荷が小さいまちづくりが進んでいるまち>

指標	把握頻度	把握方法	留意点
・公共施設、街路灯へのLED等の導入件数	毎年	・市による把握	
・高効率給湯器等導入件数	毎年		・エネルギー事業者照会で一部把握可

<5. 環境意識が次世代へ継承されるまち>

指標	把握年	把握方法	留意点
・環境学習講座実施回数および参加者数（市、市民団体、環境教育ボランティア）	毎年	・市による把握、各団体への照会	
・里山保全体験人数	毎年	・市による把握	

4. 進行管理スケジュール

＜把握可能なデータについて＞

- ・「目標値への進捗指標」および「全体指標」の排出量に関するデータについては、統計データの関係から2か年前の状態の把握となる。(概ね9月頃に把握可能)
- ・「全体指標の活動数」や「活動指標」および「施策」については前年度分の把握が可能。

＜スケジュールの目安＞

- ・前年度の取り組み評価およびその評価を次年度以降の取り組みにつなげていくことが目的であることから、速報値にて、次年度の予算編成に間に合うよう評価・審議を行う。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・ 排出量データ把握	概ね前々年度のデータ収集可					●	概ね前年度のデータ収集可 (一部難しいものもあり)					
・ 活動数把握	前年度のデータ収集可					●						
・ 環境審議会		●										●
・ 部会						評価・次年度以降への取り組み助言						確定値について評価
・ 予算編成							反映					次年度の予算検討